

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	プロジスパーク八千代1プロジェクト	階数	地上5F
建設地	千葉県八千代市保品1809番1	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2022年10月 予定	評価の実施日	2022年12月7日
敷地面積	69,302 m <sup>2</sup>	作成者	窪田 朋子
建築面積	33,475 m <sup>2</sup>	確認日	2022年12月7日
延床面積	161,219 m <sup>2</sup>	確認者	相山 歩



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.5**

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

**LR のスコア = 4.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> ・千葉県八千代市に新設される倉庫である。 ・高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量の低減に努めている。		-
<b>Q1 室内環境</b> ・評価対象外	<b>Q2 サービス性能</b> ・高寿命な材料を使用し、建物の耐久性に配慮している。 ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・緑化による良好な景観形成に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> ・運用管理体制の構築や年間のエネルギー消費量目標値を設定することで運用時のエネルギー管理に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。 ・OAフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。 ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版**  
**プロジスパーク八千代1プロジェクト**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>									
<b>1 音環境</b>									
1.1 室内騒音レベル		-			-	-	-	-	-
1.2 遮音		-			-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-			-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-			-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-			-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-			-	-	-	-	-
1.3 吸音		-			-	-	-	-	-
<b>2 温熱環境</b>									
2.1 室温制御		-			-	-	-	-	-
1 室温		-			-	-	-	-	-
2 外皮性能		-			-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		-			-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		-			-	-	-	-	-
2.3 空調方式		-			-	-	-	-	-
<b>3 光・視環境</b>									
3.1 屋光利用		-			-	-	-	-	-
1 屋光率		-			-	-	-	-	-
2 方位別開口		-			-	-	-	-	-
3 屋光利用設備		-			-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-			-	-	-	-	-
1 屋光制御		-			-	-	-	-	-
3.3 照度		-			-	-	-	-	-
3.4 照明制御		-			-	-	-	-	-
<b>4 空気質環境</b>									
4.1 発生源対策		-			-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		-			-	-	-	-	-
4.2 換気		-			-	-	-	-	-
1 換気量		-			-	-	-	-	-
2 自然換気性能		-			-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-			-	-	-	-	-
4.3 運用管理		-			-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視		-			-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-			-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>						<b>0.43</b>			<b>4.2</b>
<b>1 機能性</b>									
1.1 機能性・使いやすさ		-			-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-			-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-			-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画		-			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-			-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-			-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		-			-	-	-	-	-
3 内装計画		-			-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-			-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-			-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-			-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>					<b>4.1</b>	0.50			<b>4.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		-			<b>4.6</b>	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法等に定められた50%増の耐震性を保有している。			5.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		-			3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		-			<b>4.1</b>	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		-			3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		耐火断熱サンドイッチパネル]→40年(巻末資料)※アルミ製建具を代用			5.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:浸透性コンクリート表面硬化剤塗布→20年(BELCA資料)※無機質系塗床剤			5.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出、多湿箇所にはステンレス鋼板を採用している。			4.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水(VLP):B、排水(VP):B、冷媒(CU):C			5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		-			3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性		-			<b>3.2</b>	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		-			3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		-			3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		-			3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		機械・配管支持方法の耐震クラスは、A以上である。			4.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		-			3.0	0.20	-	-	-

<b>3</b>	<b>対応性・更新性</b>		<b>4.3</b>	0.50	-	-	<b>4.3</b>
	<b>3.1 空間のゆとり</b>		<b>5.0</b>	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	階高は3.9以上である。	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率は0.1未満である。	5.0	0.40	-	-	
	<b>3.2 荷重のゆとり</b>	床の制裁荷重は4500N/m <sup>2</sup> 以上である。	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
	<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>3.4</b>	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	仕上材、構造部材を傷めることなく配線の更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	仕上材、構造部材を傷めることなく配線の更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
<b>Q3</b>	<b>室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.57</b>	-	-	<b>2.8</b>
<b>1</b>	<b>生物環境の保全と創出</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2</b>	<b>まちなみ・景観への配慮</b>	-	<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3</b>	<b>地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	<b>2.0</b>	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR</b>	<b>建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>4.0</b>
<b>LR1</b>	<b>エネルギー</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.3</b>
<b>1</b>	<b>建物外皮の熱負荷抑制</b>	-	-	-	-	-	-
<b>2</b>	<b>自然エネルギー利用</b>	-	<b>3.0</b>	0.13	-	-	<b>3.0</b>
<b>3</b>	<b>設備システムの高効率化</b>	BEIm=0.46	<b>5.0</b>	0.63	-	-	<b>5.0</b>
<b>4</b>	<b>効率的運用</b>		<b>3.5</b>	0.25	-	-	<b>3.5</b>
	集合住宅以外の評価		<b>3.5</b>	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	主要な用途別エネルギー消費内訳を把握できる。	4.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
<b>LR2</b>	<b>資源・マテリアル</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.1</b>
<b>1</b>	<b>水資源保護</b>		<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
	1.1 節水	主要水栓等に加えて省水型機器を過半数以上に採用している。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
<b>2</b>	<b>非再生性資源の使用量削減</b>		<b>4.4</b>	0.60	-	-	<b>4.4</b>
	2.1 材料使用量の削減	機械式継手等を採用している。	4.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメントの採用がある。	5.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	岩綿吸音板、ビニル床シート、OAフロア	5.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.22	-	-	
<b>3</b>	<b>汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.9</b>	0.20	-	-	<b>3.9</b>
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	エコロイヤルセメント、スーパーブルー96α、巾木糊、OAクリアコー	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		<b>3.5</b>	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP<0.01、1<GWP<50発泡剤を用いた断熱材を使用している。	4.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
<b>LR3</b>	<b>敷地外環境</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1</b>	<b>地球温暖化への配慮</b>	高効率な設備機器の採用によるCO2の削減を図っている。	<b>3.9</b>	0.33	-	-	<b>3.9</b>
<b>2</b>	<b>地域環境への配慮</b>		<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
	2.1 大気汚染防止	燃焼設備の採用は無い。	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		<b>3.2</b>	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	駐輪場・駐車場の適切な量を確保、利便性に配慮した計画などがある。	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
<b>3</b>	<b>周辺環境への配慮</b>		<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		<b>3.7</b>	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画がある。	4.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	9.0	-	2.0	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	4.0	-	-	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0	-	1.0	-	-	3.0	1.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率( $\eta$ )	-
U値(W/m <sup>2</sup> K)	窓システム	屋根	外壁
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	$\eta AC$
			$\eta AH$

3.1.1 昼光率

昼光率	0.0%
-----	------

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率	0.0%
-------------	------

**Q2 サービス性能**

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0m <sup>2</sup> /人	病床	.0m <sup>2</sup> /床	シングル	.0m <sup>2</sup> ツイン	.0m <sup>2</sup>
--------	---------------------	----	---------------------	------	----------------------	------------------

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量	0.0 VA/m <sup>2</sup>
---------	-----------------------

1.2.1 広さ感・景観

天井高	0 m
-----	-----

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%
------------	------	---------	------

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数	0 年
--------	-----

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔	40 年
--------	------

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	20 年
--------	------

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔	0 年
--------	-----

3.1.1 階高のゆとり

階高	3.9 m
----	-------

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	10.0%
-------	-------

3.2 荷重のゆとり

床荷重	4500 N/m <sup>2</sup>
-----	-----------------------

**Q3 室外環境(敷地内)**

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	0%	建物緑化指数	0%
--------	----	--------	----

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	20%	水平投影面積率	0%	地表面対策面積率	0%	舗装面積率	0%
-----	-----	---------	----	----------	----	-------	----

**LR1 エネルギー**

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI <sub>m</sub>	-	断熱等性能等級	対象外	相当
----------------------	---	---------	-----	----

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m <sup>2</sup>	採光を満たす教室数	80.0%	採光を満たす住戸数	80.0%
		通風を満たす教室数	80.0%	通風を満たす住戸数	80.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI <sub>m</sub>	非住宅	0.46	住宅	-	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
----------------------	-----	------	----	---	-----	------	------	------	-----	------

**LR2 資源・マテリアル**

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%
-------	------

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目	フロアリユーム	エコマーク商品	ダイロートン、AN3	躯体指定の特定品目等	-
--------	---------	---------	------------	------------	---

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	0.0%
------	------

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
---------------	--	--------------	--

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	0.01	地球温暖化係数(GWP)	50
---------------	------	--------------	----

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
---------------	--	--------------	--

**LR3 敷地外環境**

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	0%	隣棟間隔指標R <sub>w</sub>	-
地表面対策面積率	0.0%	屋根面対策面積率	#DIV/0!
		外壁面対策面積率	#DIV/0!
見付面積S <sub>b</sub>	m <sup>2</sup>	卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub>	0 m
		基準高さH <sub>b</sub>	0 m
緑地	m <sup>2</sup>	水面	m <sup>2</sup>
		保水性対策面	m <sup>2</sup>
		高反射対策面	m <sup>2</sup>
		再帰性反射対策面	m <sup>2</sup>